

吉田城君の奥様とお子様へ

この度は吉田城君の訃報に接し驚きを隠せません。

奥様をはじめご家族の悲嘆如何ばかりかと察するに余りあります。

今更何を言っても手遅れとは思いますが、ご家族が城君を偲ぶ何かのよすがとなればと私の記憶の範囲で城君の思い出をお伝えしたいと思います。元々理系で記憶の苦手な私ですし、最近には富に記憶が曖昧になってきましたから間違った部分も多々あると存じますが、少なくとも私としては事実と信じているものです。

私も父を55歳の誕生日に亡くしました。先日、親父の33回忌を済ませたばかりでもありますし、私自身、父を亡くした歳になりまして、これからは父の過ごせなかった日々を過ごすことになるのだと感慨を深めている日々です。ただ父は私と違って忙しい人で55年の歳月を疾風怒涛の如く過ごしましたから、私とは全く異なる中身の濃い人生を歩みました。内田君の追悼文を拝見する限り、城君もそういう中身の濃い人生を送られたのだと推察致します。

城（ここからは高校時代の習慣で、そう呼ばせて頂きます）との付き合いは、日比谷高校のクラスメートとしてです。名簿順に並んだ席で3年間、平野、武藤、矢野、吉国、吉田の順でしたからかなり近い方で、この辺はローカルなグループを結成していましたし、彼も私も語学と絵が好きという共通点がありましたから、席次以上に近い存在だったと言えます。

彼との思い出の1つに、夏休みの英語の宿題があります。何故か2人でリーダーの宿題を1日で読む競争をすることになり、半ば徹夜で読破した覚えがあります。彼はESCの部長をするくらいの語学力でしたから考えてみれば無謀な話です。ただし、私は高校くらいまではかなり英語が好きで、むしろ数学好きの姉よりも才能は有ったと自負していましたからプライドが有ったのだと思います。日比谷高校というのは、珍しい文科系の受験校で、英語に異常に力点が置かれ、「毎日毎日、こんなに英語の宿題ばかりやっていて良いのか、数学も少しはやらないとアカンのじゃないか」と不安になる奇妙な高校生活でした。彼は在学中から「将来は語学と美学を融合するような仕事をしてみたい」と語っていた記憶があります。どこかの美術館へ多分クラスで見学に行った際、二人でいろいろコメントしながら回ったのですが、私の自分勝手な批評に彼は結構理解を示してくれて、それは今でも私の自慢の一つになっています。それから、ビートルズが高校の隣のヒルトン・ホテルにやって来たとき、美術の写生で自由時間があり、クラスの連中は殆ど皆ヒルトンに見物に行ったのですが、

私はしらけて高校の敷地内のヒルトンが見える高台にキャンパスをおいてホテルの絵を書いていたことがあります。相棒は確か城だったと思います。

私の姉（嫁して竹内典子。すでに故人です。）が外語大の仏語を出たせいもあって、城の父君の仕事や、後には城君自体の仕事の話も良く聞きました（専門外で覚えていませんが）。城は仏文で、姉貴は仏語でしたから専門は大分違うのだということは、確か城が教えてくれたと記憶します。

城とは何十年も音信不通でしたが、確か1999年に国際会議の関係で私が京都に滞在した際、お会いしました。どこかのショッピングセンターのようなところで待ち合わせたのですが、ほぼ30年ぶりでお互いどういう風に老けたかわからないものですから、私などは先に着いていたせいもあり、それと覚しき二人くらいに声を掛けてしまったのですが、本人が現れると一目瞭然で、「お互い全然変わってないな」と笑いあったものです。その日、城は「家で仕事関係のビデオを見ていた」と聞いて、「さすが我輩のような工学部と違って文学部は優雅だな」と一人合点したのですが、内田君の追悼文によれば、これは勘違いだったようです。その折、「以前大きなプロジェクトを引き受けたことがあって、それで無理をした。そのせいで透析が必要になった。」といって壮絶な注射の跡をみせてくれました。当時私はプロジェクトとは無縁でしたが、その後「運良く？」プロジェクトに当たって（一口にプロジェクトと言っても文系と理系では随分違うのだとは思いますが）、とにかく私なりに多忙になったのですが、私も決して身体の丈夫な方ではないので、彼のこの話を良く思い出します。ただ、奥様は仕事の関係でよくご存知かもしれませんが、「プロジェクト」などにからんでいると限界を超えても頑張りたいときが来るのも事実で、家庭を顧みないわけではないのですが、難しいところです。少なくとも、うちの家内には理解してもらえない点です。

私がいうべき言葉ではありませんが、今まで城の健康を維持されて来たこと本当にご苦勞様でした。これからはお子様方と力を合わせて、できれば城の33回忌を皆で弔うくらいになられたらとお祈り申し上げます。

何かお力になれることがありましたら何なりとお申し付け下さい。

2005年 7月27日

北海道大学大学院工学研究科・応用物理学専攻
武藤 俊一 Shunichi MUTO